

## オプトアウト文書

【研究課題】 ペプチドワクチンを用いた成人 T 細胞白血病 (ATL) 免疫治療法の開発

【研究責任者氏名】 医学部保健学科血液免疫検査学分野 教授 福島卓也

【研究機関の名称】 琉球大学医学部血液免疫学分野

【研究機関の長】 琉球大学 学長 大城肇

## 研究対象者

成人 T 細胞白血病・リンパ腫 (ATL) と診断され、臨床倫理審査承認番号 478 「高悪性度成人細胞白血病・リンパ腫(ATL)における微小残存病変(MRD)検査法の臨床応用に関する研究」および同 777 「沖縄県における ATL 患者/HTLV-1 キャリア生体試料バンクの構築」に同意して頂き、腫瘍細胞を沖縄 ATL バイオバンクに凍結保存することに同意された方が対象となります。

## 研究の意義

ATL は化学療法による生存期間中央値が約 1 年の予後不良の疾患で、有効な治療法の確立が急がれています。琉球大学医学部血液免疫検査学分野および医学研究科免疫学講座、細胞病理学講座では日本電気株式会社(NEC)と共同で免疫療法の開発を目的として、ATL 治療に有効なペプチドワクチン候補となるペプチドを同定・検証する研究を行います。そして将来の ATL 治療法の開発に取り組みます。

## 研究の目的

ATL 治療に有効なペプチドワクチン候補となるペプチドを同定・検証を目的とします。

## 研究の方法

ATL患者の血液サンプル及び臨床サンプルを用いて、がんワクチン候補ペプチドによる癌免疫誘導活性を確認するとともに、がんワクチンが標的とする遺伝子及び蛋白質が確かに発現しているかどうかを確認します。

### (1) 免疫応答能の確認

HLA-A\*24:02, 02:01型など特定のHLA遺伝子型を持ったATL患者血液を用いて、ペプチドによる免疫誘導試験を実施します。

## (2) 標的発現の確認

ATLの腫瘍細胞が持つ遺伝子変異を観察する手法として、次世代シーケンス法、FISH法、マイクロアレイ、PCR法などによる効率的な解析法の開発に取り組めます。

### 評価の方法

免疫細胞からのサイトカイン産生、腫瘍細胞殺傷能、標的候補遺伝子及び蛋白質の発現

### 研究実施体制

#### ・研究責任者：

琉球大学医学部保健学科血液免疫検査学分野・教授、福島卓也

#### ・教授、研究分担者（免疫誘導試験の実施）：

琉球大学大学院医学研究科免疫学講座・教授、田中勇悦

#### ・研究分担者（遺伝子・蛋白質の発現解析）：

琉球大学大学院医学研究科細胞病理学講座・教授、加留部謙之輔

#### ・研究分担者（遺伝子・蛋白質の発現解析）：

東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻  
病態医療科学分野・教授、内丸薫

### 個人情報の開示に関わる手続き

琉球大学の個人情報開示に基づき開示手続きを行います。詳しくは下記を参照して下さい。

[http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ\\_info/general/measure\\_privacy/](http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/measure_privacy/)

#### 【個人情報の利用目的・開示・非開示の説明】

症例に基づく研究のために個人情報を利用します。研究活動を実施する際は実施に関する法令や倫理指針、関係団体などのガイドライン等が定めている場合はそれに沿って誠実に遂行いたします。

個人情報の開示手続きに基づき行います。ただし、他の研究対象者などの個人情報および知的財産の保護などに支障がない範囲内に限られます。また開示の目的によっては開示をお断りする場合があります。

**【研究協力の撤回の自由】**

この研究は、いつでも参加を取り消すことができます。研究参加を希望されない場合は、下記連絡先までご連絡下さい。

**【研究計画書および研究方法に関わる資料の入手・閲覧】**

研究計画書の入手・閲覧を希望される研究対象者は相談先にご連絡下さい。

他の研究対象者などの個人情報および知的財産の保護などに支障がない範囲内に限り入手・閲覧が可能になります。

ただし、入手・閲覧の目的によっては入手・閲覧をお断りする場合があります。

研究方法については研究概要をご参照下さい。

**【相談先】**

医学部保健学科血液免疫検査学分野 福島卓也

〒903-0215 西原町字上原 207 番地

電話：098-895-1276

E-mail: fukutaku@med.u-ryukyu.ac.jp